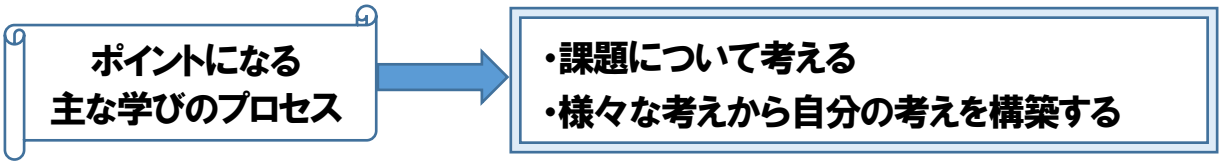
6-10　実践協力校における授業実践
事例⑩　大和市立下福田小学校
5年生　総合的な学習の時間



Ⅰ　指導計画

1．指導テーマ　小学校第５学年　総合的な学習の時間　「環境について考えよう」

2．年間を通した指導目標

・環境に関わる経験や体験を通して、現代社会や地域における環境問題の現状と問題点を理解するとともに、環境改善に向けて自分たちができることを考えて実践する。

3．年間を通した指導計画

単元	ねらい（◇）・学習内容（◆）
［1］	◇環境についてのイメージマップをもとに、課題を設定する。 ◆環境についてのイメージマップを作り、環境には問題点が数多くあることを知り、課題を設定する。
［2］	◇環境問題について追究する。 ◆調べ学習を行い、環境問題が自分たちの生活に及ぼす影響を考える。
［3］	◇環境改善に努める人々との出会いや体験により、自分の考えを広げる。 ◆「引地川水辺協議会」や「自動車会社で働く人」と出会い、環境改善に取り組む体験を通して、環境問題を多面的・多角的にとらえる。
［4］	◇自分たちにもできる環境改善に取り組む。 ◆今までの学習をまとめ、環境改善に必要なことを考え、実践する。
［5］	◇学習を振り返り、次の学習へつなげる。 ◆環境改善に取り組んだ成果を確認する中で、課題を発見する。
［6］	◇環境改善についてのイメージを広げる。 ◆環境改善を行う目的について話し合い、環境改善は、よりよい下福田小学校にするために行うことを共有する。
［7］ ＊本時を含む	◇よりよい下福田小学校にするために、自分たちの学級（・学年）に必要なことは何かという視点から自分たちでできることを考え、話し合い、自分たちの取り組みを決める。 ◆現状と問題点を明確にし、環境の改善に取り組む。
［8］	◇学習を振り返り、今後の生活につなげる。 ◆今までの学習を振り返り、児童会活動や最上級生としての学校づくりを考える。

Ⅱ　本時の様子

1．本時の目標　○「よりよい下福田小学校」を多面的・多角的に考えることができる。
○「よりよい下福田小学校」に向けた環境改善を再構築することができる。

2．本時の展開

＊本時の前に、単元〔５〕から〔７〕の前半において、以下の内容を実施した。

［5］	○環境改善として学級で取り組んだ清掃活動を振り返り、清掃活動だけでは環境を改善できないという新たな課題に気付く。
［6］	○「環境」のとらえを広げてとらえ直し、新たなイメージマップを作成する。 ○環境改善は、よりよい下福田小学校にするために行うことを共有する。
［7］	○よりよい下福田小学校にするために、自分たちの学級（・学年）に必要なことは何かという視点から自分たちで実行できることを考え、話し合う。 ・イメージマップをもとに「よりよい下福田小学校」に向けた環境改善を考える。（個人） ・友だちと考えを伝え合い、似ている考えをもつ者同士でグループになりグループ内で意見をまとめる。（グループ）　＊根拠をもって考えを発表するため、校舎内を調べたりアンケートを取ったりするなどの活動を促す。

「政治的教養を育む教育」の身に付けさせたい力の視点

	学習活動（活動の流れ）	ポイントになる学びのプロセス
導入	○発表する内容を確認する。	
展開	「よりよい下福田小学校」に向けて、学級から発信しよう ○各グループの意見を全体で共有する。 ＊自分の考えを広げる。 ○全体で話し合って、学級から発信することを決めよう。 ＊自分の考えを深める。	課題について考える 他グループの考えを聞き、自分たちとの共通点や違いに気付くことで、自分の考えを深めている。
まとめ	○振り返り ・課題について振り返る。	**目指す子どもの姿** 他者の見方を用いて、物事を多面的・多角的にとらえ、自分の意見と友達の意見をつなげることで、自分の考えを深めていく姿。 様々な考え方から、自分の考えを構築する

Ⅲ　研究協議



1．自評

○「環境」について考える対象を広げることで、児童一人ひとりが「自分のこと」として、実行可能な活動を考えられるだろうと思い、指導の展開を組み立てた。「よりよいことを皆で決めて(合意形成)それらを実行（社会参画）するには、皆の協力が大切」という意見も出たが、多くの児童たちは発表した意見を重視する傾向があり、引き続きの話し合いが必要である。

2．研究協議のテーマ　**＊令和元年度は共通テーマで協議を実施。**

○提案授業における「学びのプロセス」（「身に付けさせたい力」の視点）につながる児童・生徒の姿とは

3．研究協議の成果と課題

成果・「課題について考える」については、調べたデータや根拠をもとに自信をもって意見を述べている児童たちの姿があった。また、児童が「自分のこと」としてとらえることができていたことにより「本当にできるの？」と、安易に取組を決めることへの懸念や、本気で取り組む覚悟が全員にあるか、などの発言が見られた。

課題・合意形成の前提として、自分の意見を周囲に理解してもらう時間を十分に確保することが必要である。また、この話し合いにおける合意形成のかたちは、あらかじめ学級の中で確認しておくことが必要である。

Ⅳ　実践協力校での授業実践を基にした指導事例

R１-２　小学校５年生　総合的な学習の時間　指導事例
「環境について考えよう」

【年間を通した指導目標】
・環境に関わる経験や体験を通して、現代社会や地域における環境問題の現状と問題点を理解するとともに、環境改善に向けて自分たちができることを考えて実践する。

【目指す子どもの姿】
・他者の見方を用いて、物事を多面的・多角的にとらえ、自分の意見と友達の意見をつなげることで、自分の考えを深め、自分たちにできることを考え実践する姿。

単元〔５〕～〔７〕の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学　習　活　動	ポイントになる学びのプロセス
○環境改善として学級で取組んだ清掃活動を振り返る② Ｔ：皆で清掃した場所は、今どんな状態かな？ Ｃ：せっかくきれいにしたのに、またごみが落ちて、元通りになっていたよ。 Ｃ：また掃除に行かなきゃいけないね。 Ｃ：行ってもいいけどさ、自分たちが６年生になっても続けられるの？卒業しても？ Ｃ：そもそも、掃除だけで、学校の環境改善が達成できるのかな？ **Ｔ：皆の活動はすばらしいことだけど、清掃活動以外にも、環境改善すべきことがあるかもしれないね。**次の時間に、環境改善について、もう少し広げて考えてみよう。	**ポイント１** **○課題について考える**
○環境改善のイメージを広げ、目的を共有する② Ｔ：学校をよりよくするためには、どんな環境改善が必要かな。 Ｃ：インフルエンザが流行する時期だから手洗いやうがいを皆が実行すべきだと思う。 Ｃ：雨の日に校庭を歩くと昇降口が汚れるから、コンクリートの通路を歩くべきだ。 Ｃ：環境改善って、衛生面や安全面だけじゃなくて、学級のことも取り上げていい？チームワークや団結力って、大事だと思うけど。 Ｃ：人間関係も入れてほしい。陰口や喧嘩がある環境はよくないと思うから。…… **Ｔ：環境改善についてのイメージが、ずいぶん広がったね。ところで、環境改善って、どうしてやろうとしたんだっけ？** Ｃ：皆が居心地のよい環境をつくるため。 Ｃ：自分たちの学校が、よりよくなるため。 Ｔ：そうだったね。よりよい学校にするために必要な環境改善は何だと思うか、自分の考えを書いてみよう。	**ポイント１** **○課題について考える**
○環境改善のイメージを広げ、目的を共有する③ ・新たな環境改善について考えたイメージマップをもとに、よりよい学校をめざして何ができるかを考え、似た考えをもつ者同士のグループ内で意見をまとめる。 ・グループ発表をとおして、意見を共有する。 **・よりよい学校にするために必要なことは何か、話し合って自分たちの学級の取組内容を決める。**	**ポイント２** **○様々な考えから自分の考えを構築する**
○取組を実施する⑥ ・現状と問題点を明確にし、環境の改善に取り組む。	
○学習を振り返り、今後の生活につなげる② ・学習を振り返り、児童会活動や最上級生としての学校づくりを考える。	

2　政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

自分自身の学びを振り返り、新たな課題を見出す過程を大切にしましょう。

総合的な学習の時間において、児童たちによる探究活動を進め、これまでの取組を振り返る場面では、思うような成果が出せていなかったり、予想した結果にならなかったりする場合があります。

本事例では、せっかく学級の皆で清掃活動を行った場所が、時間がたてば、元通りに汚れてしまっていたことから、「学校の環境改善は、掃除だけで達成できるのか？」という新たな問いに児童たちが気付きます。そこで、授業者は環境改善のイメージを広げて考えることで、新たな環境改善イメージマップを学級全員で話し合って作ることを児童たちに提案しました。



このように、学習活動の終末に限らず、途中段階において新たな課題を見出す過程を大切にすることは、政治的教養を育むための「学びのプロセス」といえます。

総合的な学習の時間（小学校高学年）における「政治的教養を育む教育」につながる授業展開例

【よりよい小学校にするために必要なことは何か、話し合う場面】

C：「あいさつ」に決めるのは、反対！うちの学級はあいさつをするほうだし、今できていることは、取り組むべきことじゃないでしょ？

C：でもさ、「あいさつ」って、全員がちゃんとあいさつをしているの？

C：え、してるでしょ？

C：えー、してないよー。代表委員のあいさつ運動だって、あいさつをしてない人もいるでしょう？

C：（代表委員の児童）うーん…。（あいさつする人としない人と）、半々くらいかなあ…。

～中略～

C：人間関係っていうか、チームワークがよくなれば、あいさつもその他のことも協力してちゃんとできるようになるかもしれない。

C：チームワークって、将来ちゃんとできるように、今から少しずつ練習することが必要なんだよ。

C：うーん。あいさつやチームワークって、自然にできるのがベストだと思うんだよね……。

C：「協力」っていうけどさ。いつか皆、本当にできるようになるの？……え、僕？…皆が絶対やるんだという意思があるなら、（自分も）できると思うけど、一人でも「別に」って人がいたら無理。

T：これまでの話し合いをまとめてみると、（学級や学年の）チームワークがよくなれば全体の環境改善につながりそうだという意見が多かったのですが、チームワークに絞るほど皆の気持ちが固まっていないのですか。（児童たちが頷く。）

ポイント2

T：では、今の時点での自分の意見を振り返りに書いてくれますか？話し合いの続きは次回にしましょう。

授業者は、合意形成に至る前提として、自分の意見を周囲に受け止めてもらうことが必要であることを重視して、本時では、学級で発信する取組をあえて絞らせようとはしていない。